

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向
平成 28 年 6 月

○ 概要

(1) 平成 28 年 6 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 6,047 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）▲2.0%）で、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 8,953 円（伸び率▲1.0%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,487 億円（伸び率▲0.9%）、薬剤料が 4,549 億円（伸び率▲2.4%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 675 億円（伸び率 3.4%）であった。（→P.4）

3要素分解 （→P.8~9）	処方せん 1 枚当たり 薬剤料	処方せん 1 枚当たり 薬剤料種類数	1 種類当たり 投薬日数	1 種類 1 日当たり 薬剤料
実数	5,573 円	2.77 種類	23.4 日	86 円
伸び率（%）	▲1.4	▲0.6	+2.8	▲3.5

(2) 薬剤料の多くを占める内服薬 3,764 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）▲94 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 822 億円（伸び幅▲86 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 62 化学療法剤の 108 億円（総額 315 億円）であった。（→P.10）

年齢区分 （→P.10~15）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,764 億円 （▲94 億円）	21 循環器官用薬 （822 億円）	11 中枢神経系用薬 （627 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（517 億円）
0 歳以上 5 歳未満	35.2 億円 （▲3.6 億円）	44 アレルギー用薬 （15.2 億円）	61 抗生物質製剤 （8.9 億円）	22 呼吸器官用薬 （4.9 億円）
5 歳以上 15 歳未満	76.7 億円 （▲4.9 億円）	44 アレルギー用薬 （32.2 億円）	11 中枢神経系用薬 （15.1 億円）	61 抗生物質製剤 （10.7 億円）
15 歳以上 65 歳未満	1,314 億円 （▲18 億円）	11 中枢神経系用薬 （270 億円）	21 循環器官用薬 （248 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（190 億円）
65 歳以上 75 歳未満	966 億円 （▲26 億円）	21 循環器官用薬 （252 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（155 億円）	11 中枢神経系用薬 （110 億円）
75 歳以上	1,372 億円 （▲42 億円）	21 循環器官用薬 （319 億円）	11 中枢神経系用薬 （231 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（168 億円）

(3) 処方せん 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 8,953 円（伸び率▲1.0%）で、最も高かったのは京都府（10,827 円（伸び率▲0.9%））、最も低かったのは福岡県（7,846 円（伸び率▲0.9%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは佐賀県（伸び率 2.5%）、最も低かったのは石川県（伸び率▲5.5%）であった。（→P.27~28）

【後発医薬品薬剤料】 675 億円（伸び率：3.4%、伸び幅：22 億円）（→P.36~37）

【後発医薬品割合】（→P.35）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^注	65.6%	+6.5%
薬剤料ベース	14.8%	+0.8%
後発品調剤率	65.4%	+4.2%
（参考）数量ベース（旧指標）	43.7%	+4.9%

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.37）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+3.4%	+14.2% （0 歳以上 5 歳未満）	▲4.1% （60 歳以上 65 歳未満）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	14.8%	15.9% （75 歳以上）	9.8% （10 歳以上 15 歳未満）

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.38~44）

年齢区分 （→P.38~44）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	597 億円 （+18 億円）	21 循環器官用薬 （171 億円）	23 消化器官用薬 （105 億円）	11 中枢神経系用薬 （68 億円）
0 歳以上 5 歳未満	5.5 億円 （+0.7 億円）	22 呼吸器官用薬 （2.1 億円）	61 抗生物質製剤 （1.3 億円）	44 アレルギー用薬 （1.1 億円）
5 歳以上 15 歳未満	9.7 億円 （+0.6 億円）	44 アレルギー用薬 （4.1 億円）	61 抗生物質製剤 （2.3 億円）	22 呼吸器官用薬 （1.6 億円）
15 歳以上 65 歳未満	193 億円 （▲0 億円）	21 循環器官用薬 （48 億円）	23 消化器官用薬 （30 億円）	11 中枢神経系用薬 （28 億円）
65 歳以上 75 歳未満	156 億円 （+3 億円）	21 循環器官用薬 （56 億円）	23 消化器官用薬 （27 億円）	33 血液・体液用薬 （18 億円）
75 歳以上	233 億円 （+14 億円）	21 循環器官用薬 （67 億円）	23 消化器官用薬 （48 億円）	11 中枢神経系用薬 （30 億円）

【後発医薬品 都道府県別】（→P.57~62）

	全国	最高	最低
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,000 円	1,361 円（岩手県）	835 円（福岡県）
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+4.4%	+9.3%（愛媛県）	▲1.0%（石川県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	65.6%	77.3%（沖縄県）	55.7%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	14.8%	19.2%（鹿児島県）	12.0%（徳島県）
後発医薬品調剤率	65.4%	76.5%（沖縄県）	58.9%（山梨県）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	43.7%	54.5%（沖縄県）	37.5%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成 28 年 6 月現在の電算処理割合は、処方せん枚数ベース、医療費ベースともに約 99%である。